平成 29 年度　事業報告の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

平成 29 年度事業の概況

財団設立３０周年記念事業を継続し、締めくくりながら、その成果を検証し、今後の社会情勢を見据えた新たな事業体系や、それを実施していくための組織の在り方について検討を進めた。運営にかかる基本指針及び指定管理提案書等に沿いながら、下記の通り事業を実施した。

・既存事業の総括や新規事業の開拓を進めるとともに、各事業分野において「３０周年記念事業」を実施した。また、２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた新規事業に取り組んだ。

・指定管理者制度や劇場法などの理念に基づき、各施設での賑わいづくりや、創造型事業のプロセスにおける市民協働・人材育成を積極的に進め、「次の１０年」の基盤作りを推し進めた。

・日常的な文化芸術鑑賞機会や学習機会の充実に加え、２年度目となる「せんだい３．１１メモリアル交流館」の運営を含め、震災の記憶を後世に残す事業や被災者・地域に寄り添う事業を継続して行った。

・交流人口の拡大に向け、国内外の他地域との連携事業に力を注ぎ、東北を牽引する都市・仙台市の文化財団として機能強化に取り組んだ。

・仙台市の文化振興施策と緊密に連携し、外部資金の拡充により事業体系を充実させるとともに、職員の意識、能力の向上を図り、公益財団法人として健全かつ適切な組織運営の継続に努めた。

平成 29 年度事業の概要（経費／単位千円）

（１）支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など、市民自ら行う文化活動に対して、安全・快適で使い易い文化施設の提供をはじめとし、生涯学習の支援、広報活動の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行った。

併せて、当事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画･実施する際に必要となる地域文化情報の把握や人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努めた。

ア．施設の貸出･維持管理運営及び利用者への支援･協力

・仙台市青年文化センター 管理運営（342,232）/No.147
・泉文化創造センター 管理運営（122,800）/No.148 ※㈱東北共立、㈱石井ビル管理とのグループ
・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（60,160）/No.99
・富沢遺跡保存館 管理運営（82,621）/No.109
・仙台市縄文の森広場 管理運営（42,344）/No.122
・仙台文学館 管理運営（181,924）/No.138
・せんだいメディアテーク 管理運営（562,747）/No.149

・せんだい演劇工房 10－BOX 管理運営（26,529）/No.82
・せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営（48,549）/No.83

イ．市民企画事業への広報支援･助成･協働

・支援･助成･協力事業（19,717）/No.25
・東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業（3,620）/No.65

ウ．ボランティア、地域、教育機関等との協働

・イズミティ 21 市民協働ロビーイベント/No.36①
・仙台国際音楽コンクールボランティア運営（1,251）/No.78
・各ミュージアムボランティア運営 /No.115 ほか
・各ミュージアム 教育機関や地域との連携事業 /学校・地域連携促進事業 /No.89 ほか

エ．人材育成

・**（30 周年記念事業）**せんだい・アート・ノード・プロジェクト LECTURES/レクチュアズ（2,943）/No.20
・**（30 周年記念事業）**東京芸藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト in 仙台（774）/No.19
・舞台スタッフ☆ラボ（1,621）/No.54
・まなぶ☆からだ（身体表現ワークショップ）（846）/No.56
・せんだい短編戯曲賞（1,852）/No.57
・仙台ジュニアオーケストラ運営（24,011）/No.81

【東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト in 仙台】
（木管+ホルン部門、ピアノ部門、ヴァイオリン部門）11/4, 11, 12 （30 周年記念事業）
東京藝術大学と地域との協働による逸材発掘プロジェクト。当年度は木管+ホルン部門、ピアノ部門、ヴァイオリン部門の 3 部門を開催。ピアノ部門の講師は仙台出身で第 3 回仙台国際音楽コンクールの優勝者である津田裕也氏が務めた。講師となる藝大音楽学部教員や藝大生による無料コンサートも併せて実施したことで、市民が演奏技術や音楽教育への理解を深める機会となった。（受講者：79 人、入場者：766 人）

【せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営】通年
仙台市の東日本大震災メモリアル施設として地下鉄東西線荒井駅舎に併設された当施設の管理運営を、仙台市まちづくり政策局からの受託事業として継続して行った。2 年目となる当年度は、4 つの企画展のほか震災メモリアルや地域の魅力発信にかかる講座・ワークショップや地域連携事業協力などを行ったほか、来館者が交流しやすい場づくりに努めた。（年間来場者数：60,043 人）

【東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業】通年
2020 年（平成 32 年）の東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、仙台市との共催で公募した、地域の文化芸術分野におけるさまざまな資源による「仙台市文化プログラム」の企画提案の中から、当年度は仙台の魅力を探る「せんだいコンセキ発掘」を採択し、企画提案者と仙台市、事業団の 3 者協働で実施した。（参加者：のべ 146 人、刊行物制作：1 冊）

（２）普及、啓発事業

主に文化芸術の鑑賞層を対象とし、芸術や文化全般の魅力を広く普及していくための事業を幅広く展開し、アーティストや制作者を支える観客・サポーターやスポンサーの裾野の拡大に努めた。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育･福祉･まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業、文化情報誌の編集･発行やホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲（１）の市民文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図った。

ア．鑑賞公演

・**（30 周年記念事業）**ロシア国立ボリショイ・バレエ「白鳥の湖」（24,564）/No.2
・**（30 周年記念事業）**舞台「ロマン派症候群」（3,054）/No.7
・**（30 周年記念事業）**奈良岡朋子 一人芝居「黒い雨」（1,423）/No.4
・宝塚歌劇雪組仙台公演（26,317）/No.27
・仙台クラシックフェスティバル 2017（83,148）/No.28
・杜の都の演劇祭/№.55②
・古典芸能【仙台青葉能、文楽公演、能-BOX 経常事業、市民能楽講座等】（5,707）/No.33、53、58
・新春いずみ寄席（3,077）/No.32
・ライブ文学館（851）/No.49
・劇場･音楽堂等活性化事業【オーケストラ・スタンダード、小中学校オーケストラ鑑賞会、こまつ座公演他】（66,159）/No.34

イ．展示事業

・**（30 周年記念事業）**夏目漱石生誕 150 年記念企画展「夏目漱石～その魅力と周辺の人々（228）/ No.12
・歴史民俗資料館 特別展「Winter Life in Sendai～仙台の冬のくらし」（900）/No.103
・富沢遺跡保存館 特別企画展「いにしえの木林森」（1,876）/No.112
・仙台文学館 特別展「イラストレーター 安西水丸展」、「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」（6,787）/No.140、142
・歴史民俗資料館 企画展（1,500）/No.101、102
・富沢遺跡保存館 企画展（156）/No.111,113,114
・縄文の森広場 コーナー展示（35）/No.124
・仙台文学館 企画展（1,638）/No.143

ウ．講座･ワークショップ等

・各ミュージアムでの講座･ゼミナール･ワークショップ　/No.88,104,115 ほか
・演劇ワークショップ＆発表会/No.34④

エ．アウトリーチ

・芸術家派遣事業（0）/No.66　※実行委員会に加わり事務局を運営

オ．文化芸術情報の提供･広報

・広報事業（5,023）/No.71
・事業団友の会運営（2,979）/N0.72

【ロシア国立ボリショイ・バレエ「白鳥の湖」】6/16（金）（30 周年記念事業）

27 年ぶりの来仙となるバレエの殿堂ボリショイ・バレエ団の公演。三大バレエの１つ、「白鳥の湖」を上演した。河北新報社と共催した。（入場者：1,270 人）

【宝塚歌劇雪組仙台公演】9/2（土），3(日)

仙台市民はもとより広域からの来場者で賑わう宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演。2 日間 4 ステージで、第 1 部ミュージカル。第 2 部レビューを上演した。（入場者：5,662 人）

【仙台クラシックフェスティバル 2017】9/29（金）～10/1（日）

仙台の秋の風物詩として定着した仙台クラシックフェスティバル。12 回目を迎える今回は、仙台国際音楽コンクール入賞者と仙台フィルゆかりの出演者の共演や､仙台で音楽を学ぶ学生や子どもたちが出演する公演を設けるなど、事業団ならではの企画を盛り込んで開催した。地下鉄駅構内や街なかでのコンサート、出演者が病院などに出向いて行うコンサートなども同時開催し、仙台市内にクラシック音楽が溢れる 3 日間となった。（入場者：のべ 39,300 人）

【夏目漱石生誕 150 周年記念展「夏目漱石～その魅力と周辺の人々】11/3（金）～14（火）（30 周年記念事業）

夏目漱石生誕 150 年を記念し、漱石とその周辺の人々の紹介と関連資料を展示した。漱石文庫を所蔵する東北大学附属図書館と共催。（入場者：3,009 人）

（３）交流、創造、発信事業

仙台圏と他の地域の人材が交流し、共通認識を持って協働していくと共に、長期的継続も視野に入れながら、作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信した。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育んでいくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、市民協働・プロデュース型事業を実施した。

ア．顕彰制度･コンクール等

・第７回仙台国際音楽コンクール運営事業（35,366）/No.74～80
・（再掲）せんだい短編戯曲賞 /No.57
・ことばの祭典－短歌・俳句・川柳への誘い（423）/No.87
・土井晩翠顕彰会の支援（晩翠わかば賞・晩翠あおば賞）（0）/No.93

イ．プロデュース公演･企画公演･展示事業

・**（30 周年記念事業）**タイ王立舞踊団招聘公演・関連事業(7,951)/ No.1
・**（30 周年記念事業）**オリジナルミュージカル「仙台ねこ」（15,225）/No.5
・**（30 周年記念事業）**芝能とニッポン文化フェスティバル（5,086）/No.8
・**（30 周年記念事業）**あつまれ！仙台の伝統芸能（2,525）/No.13
・**（30 周年記念事業）**ミュージアム・シアター「狩人登場」（1,199）/No.11
・**（30 周年記念事業）**縄文祭復元事業（1,576）/No.14
・（再掲）仙台クラシックフェスティバル 2017 /No.28
・せんだい・アート・ノード・プロジェクト（30,301）/No.95
・メディアテーク「調査と表明（1）（2）」（18,285）/No.96、97
・(再掲)東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業/№65

ウ．グッズ製作･出版

・**（30 周年記念事業）**『コミュニティ・アーカイブのつくりかた』出版＆記念フォーラム（3,045）/No.21
・**（30 周年記念事業）**『RE:プロジェクト記録集』出版事業（2,235）/ No.22
・ミュージアムグッズ開発･販売（800）/No.52

【タイ王立舞踊団招聘公演・関連事業】5/26（金）～28（日）（30 周年記念事業）
日・タイ修好 130 周年、仙台市とタイの観光交流協定締結 10 周年を記念し、タイから王立舞踊団を招聘。公演に加えタイ舞踊体験講座や料理教室など様々な文化交流事業を同時開催。（公演入場者：801 人、ワークショップ・講座参加者：202 人）

【オリジナルミュージカル「仙台ねこ」】8/19（土）～20（日）（30 周年記念事業）
「仙台」と「ねこ」をテーマとした創作ミュージカル。公募による 100 人を超える市民の出演と、募集した「ねこ」に関するエピソードを台本に採用し、平成 28 年度から 1 年間のレッスンを経て上演した。作・演出・振付：梶賀千鶴子　音楽：日高哲英（入場者：1,746 人、参加者：103 人）

【芝能とニッポン文化フェスティバル】9/16（土）（30 周年記念事業）
古典芸能および伝統芸能の素晴らしさを伝えるため、卸町公園を舞台に本格的な能楽の野外公演と日本の伝統的な音楽の公演を実施した。（入場者：のべ 279 人）

【あつまれ！仙台の伝統芸能】11/3（金）（30 周年記念事業）
毎年恒例の「れきみん秋祭り」のうちの一日に、日頃は仙台市各地域でしか見ることのできない伝統芸能を集め、野外舞台で披露するお祭りとして開催した。（参加者：3,058 人）

【『RE:プロジェクト記録集』出版事業】（30 周年記念事業）
平成 23 年度から 27 年度まで展開し、成果を得た「RE:プロジェクト」の 5 か年分の記録集を発行した。通信の内容に加え 7 年目を迎えた被災地の様子や関係者の座談会を掲載。

【せんだい・アート・ノード・プロジェクト】通年
優れた現代アートの持つ発見性、吸引性、発信力を活用しながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開し、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する事業。当年度は、アーティスト藤浩志氏を迎え「ごみの資源化」プロジェクトや沿岸部の復興と向き合うプロジェクト「川俣正/仙台インプログレス」などを開催した。
（参加者：計 10,715 人）
【『コミュニティアーカイブのつくりかた』出版＆記念フォーラム】（30 周年記念事業）
震災後実施してきた市民協働アーカイブ事業「3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター」の活動記録をまとめ、事業を通じて得られたノウハウや成果、課題を共有し、次の世代に継承するため書籍『コミュニティアーカイブをつくろう！』を出版した。出版を記念したフォーラムも開催。
（フォーラム参加者：565 人）

（４）調査・研究/資料収集・保管/基盤整備等

文化芸術における分野ごとの調査や研究、ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、財団全体の事業進行管理･調整・評価･内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行った。また、震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトに継続して取り組んだ。

ア．調査･研究
・歴史民俗調査研究･報告（847）/No.107
・考古学調査研究･報告の刊行（208）/No.116
・地底の森ミュージアム遺構分析調査（347）/No.119
イ．資料収集･保存
・歴史民俗資料収集（1,967）/No.106
・文学資料収集・保管（2,971）/No.145
・メディアテークライブラリー運営等（7,126）/No.150
・地域文化アーカイブ/No.97②
・せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営（13,686）/No.85
ウ．内部評価・制作管理・職員研修他
・管理運営施設(全施設対象)利用者アンケート、職員研修　/No.73

公益財団法人仙台市市民文化事業団　平成29年度　事業報告書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

（単位；千円）

（1）芸術文化振興事業

1）30周年記念事業

当事業団の設立30周年を起点に、これまでの成果の総括・発信、外部パートナー人材や外部資金の拡充をテーマに、①事業推進力　②市民協働力　③サービス力　を強化していくための記念事業を実施した。

①公演

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
1	**日・タイ修好130周年 タイ王立舞踊団招聘公演・関連事業**	5/26～28	日立システムズホール仙台他	7,951	1,467	入場料　1,380 その他　87
	日・タイ修好130周年、仙台市とタイの観光交流協定締結10周年を記念し、タイから王立舞踊団を招聘。公演をはじめ様々な文化交流事業を開催した。 【舞踊公演】5/27「宮廷舞踊とタイ各地の民族舞踊」、5/28「北タイ・ランナー王朝の伝統舞踊と民族舞踊」　出演：タイ王立舞踊団（国立伝統芸能学校チェンマイ校） 【関連事業】タイ舞踊体験教室（講師：タイ王立舞踊団）、タイ料理教室（講師：タイレストランThaChang 竹内崇史氏）、タイ文化講座（講師：九州国立博物館 原田あゆみ氏）、タイ語講座(講師：アナワット・サッパシー氏)、秋保・長袋の田植踊り保存会との交流、交流ホール　タイ・ミニフェア開催(タイ観光情報コーナー、タイ料理屋台出店、タイ舞踊パフォーマンス＆楽器体験、ソープカービング体験、タイマッサージ体験)					公演入場者：801人（2公演） ワークショップ・講座参加者：計202人
2	**ロシア国立ボリショイ・バレエ「白鳥の湖」**	6/16	仙台銀行ホール イズミティ21	24,564	25,001	入場料　24,866 その他　135
	初来日より60年、来仙は27年ぶりとなるバレエの殿堂ボリショイ・バレエ団による世界最高峰の公演を提供した。演目は三大バレエの一つ、「白鳥の湖」。河北新報社と共催。 主な出演者：エカテリーナ・クリサノワ、ウラディスラフ・ラントラートフ					入場者：1,270人
3	**チェルフィッチュ「部屋に流れる時間の旅」仙台公演**	7/1～2	宮城野区文化センター	3,354	624	入場料　624
	国内外で評価が高い劇作家・岡田利規が脚本と演出を務める演劇カンパニー「チェルフィッチュ」による、世界の演劇祭に招聘されている最新作の公演を実施した。					入場者：211人
4	**奈良岡朋子　一人芝居「黒い雨」**	8/9	仙台銀行ホール イズミティ21	1,423	1,607	入場料　1,316 その他　291
	新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ「物語の女たちシリーズ」の第3弾として制作された、名女優　奈良岡朋子が一人で語る、文豪　井伏鱒二の「黒い雨」。2013年に初演された舞台が好評を得、その後25箇所で再演、舞台生活60年を超える奈良岡のライフワークとなった作品を市民に提供した。					入場者：369人
5	**オリジナルミュージカル「仙台ねこ」**	8/19～20	日立システムズホール仙台	15,225	7,743	入場料等　4,512 市負担金　2,518 その他　713
	「仙台」と「ねこ」をテーマとした創作ミュージカル。募集した「ねこ」に関するエピソードを台本に採用し、平成28年度から1年間のレッスンを経た市民110名が出演するという仙台発の新たな舞台創造を行った。アーティストやスタッフも仙台にゆかりのある人材を起用し、音楽は生演奏とした。 予定していた公演が完売となったため追加公演を行い全4公演を行った。 作・演出・振付：梶賀千鶴子　　音楽：日高哲英					入場者：1,746人 参加者：103人
6	**こどものための舞台芸術見本市**	8/1～3	演劇工房10-BOX、卸町公園	3,567	0	
	演劇に初めて出会う市民へのアプローチとして、ユニークな劇団を海外から招聘し、学校の夏休みの時期に、子ども向けのアウトリーチプログラムの見本市を開催。アーティストの出会いを実施した。					入場者：のべ1,476人
7	**ロマン派症候群**	9/10	日立システムズホール仙台	3,054	1,525	入場料等　418 助成金　1,100 その他　7
	平成28年1月に上田市交流文化芸術センターで制作された、演劇とクラシック音楽のコラボレーション作品「ロマン派症候群」に新たな要素と地元人材を加え上演。当初の「ある芸術家の生涯（仮）」より改題。作・演出は南河内万歳一座の内藤裕敬氏、音楽監修とピアノ演奏は仲道郁代氏。仙台フィルよりヴァイオリン・小池まどか氏、チェロ・吉岡知広氏が出演。連携事業として上田市を皮切りに仙台、大津、豊岡、雲南、北九州の6箇所をツアーで回った。関連企画として公演より前に内藤氏によるワークショップを行った。					入場者：248人 ワークショップ参加者：10人
8	**芝能とニッポン文化フェスティバル**	9/16	卸町公園	5,086	370	入場料 370
	古典芸能及び伝統芸能の素晴らしさを伝えるため、卸町公園を舞台に本格的な能楽の野外公演と日本の伝統的な音楽や芸能に親しむステージを実施した。					入場者：のべ279人
9	**周年事業共通経費**	通年	10－BOX	500	495	
	10－BOXの周年事業実施に必要な各公演のアルバイト代や協力スタッフの人件費等の経費。					

10	**渡辺源四郎商店「コーラないんですけど」仙台公演　OROSHIMACHI ART MARCHE**	10/5～9	演劇工房10-BOX	2,056	172	入場料 172
	せんだい短編戯曲賞の最終候補でもある劇作家・工藤千夏が所属し、青森を拠点にしながら国内で高い評価を得ている劇団 渡辺源四郎商店の公演を、せんだい卸町アートマルシェとの共同開催で実施した。					入場者：マルシェ850人 / 渡辺源四郎商店122人
②ミュージアム等活性化事業						
11	**ミュージアム・シアター「狩人登場」（周年事業分）**	5月～3月	富沢遺跡保存館	1,199	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団　短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することができた。これまでの活動を、館外も含めてより多面的に展開していくための衣装等の制作を行った。					
12	**夏目漱石生誕150年記念企画展「夏目漱石～その魅力と周辺の人々」**	11/3～14	メディアテーク	228	0	
	平成29年が夏目漱石生誕150年に当たることから、漱石文庫を所蔵する東北大学附属図書館と共同で夏目漱石展を開催した。ギャラリーa2を仙台文学館が担当するスペースとし、漱石とその周辺の人々の紹介と関連資料を展示した。東北大学附属図書館と共催。					入場者：3,009人
13	**「あつまれ！仙台の伝統芸能」**	11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,525	0	
	毎年恒例開催のれきみん秋祭りの伝統芸能競演を拡大し、現代の文化芸術の振興と郷土の歴史の継承をさらに支援する内容で実施した。仙台を中心に地域の芸術文化を支え、魅力ある市民の文化創造と市民生活を支える当財団のヴィジョンを示す場として、野外の舞台やひろば等での上演と館内展示を結んで、動態的なイベントとなった。					参加者：3,058人
14	**縄文祭復元事業（周年事業分）**	通年	縄文の森広場	1,576	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、まつりの復元・創造を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民と一緒に公開した。当年度は8/11、12に冒険家の石川仁氏を招き、広瀬川宮沢緑地公園で草舟づくりを行い、川に浮かべて乗船体験を行った。また、前年度に引き続き、これまで復元製作してきた楽器を演奏する公開イベント「縄文人の記憶と宴」として館と地域団体・学校などと連携して大規模に行った。館の独自事業と位置づけ全国に発信した。					草舟づくり参加者：75人 宴参加者：207人
15	**学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」(周年事業分)**	通年	縄文の森広場	982	0	
	より身近に縄文文化をとらえてもらえるよう、土器の3D計測を行い型をとり、それを活用した当館独自のメニュー開発を行った。当年度は、その型を用いて事業団30周年事業として2～3時間のイベントを計2回実施した。また、イベントの成果に基づき、メニューに合う型の増産・改良などを行った。					参加者：6組15人
16	**野外展示「縄文の森」多目的活用「森でみつける「じょうもん」」**	通年	縄文の森広場	160	0	
	野外展示の広場をより有効に活用するための取り組みを行った。太白山周辺の自然を活用しながら、縄文時代の自然環境について学ぶ機会として、専門家の指導のもと、太白小学校1年生を対象として太白山自然観察の森で植物の観察会や種子の採取を行い、広場に補植するために生育を行った。より地域住民にとって親しみのある広場となることを目的として、地域施設である太白山自然観察センターや青葉の森職員と連携して実施した。					参加者：56人
17	**交流スペース喫茶事業**	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	144	156	
	メモリアル交流館が、仙台東部沿岸地域の玄関口として、当該エリアを回遊する拠点となる機能を強化することを目的に、地域住民や来館者にとって、当館が安心して楽しく滞在できる場所として認知してもらうため、1F交流スペースにおいて飲食物（被災沿岸部の地サイダー）の販売等を行った。					
18	**「手でつくる」Labo**	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	58	1	
	仙台東部沿岸地域において自然資源を活用しながら続けられてきた手仕事に焦点を当て、その技術を持つ地域住民とのさまざまな共同作業をとおして、その手仕事が成立してきた暮らしの背景や技術の伝承を試みた。 ①〈実演〉稲わらを使ったムシロ編み（11/26） ②〈講座〉稲わらを使った輪通しづくり（12/17） ③〈調査〉竹による鳥かごづくり（2/8）					参加者： ①10人 ②18人 ③5人
③育成・普及事業						
19	**東京藝術大学音楽学部 早期教育プロジェクト in仙台（木管＋ホルン部門、ピアノ部門、ヴァイオリン部門）**	11/4，11，12	日立システムズホール仙台	774	0	
	東京藝術大学と地域とが協働して取り組む逸材発掘プロジェクト。東京藝術大学音楽学部の教員（ピアノ部門講師は仙台出身で第3回仙台国際音楽コンクールの優勝者でもある津田裕也氏）が仙台に赴き、地域で音楽に取り組む子供たちを対象に公開型レッスンを実施。子供たちの音楽的な可能性を引き出し伸ばす方策を探るとともに、子供たちが相互に刺激し学びあう環境づくりを行なった。また、地域で音楽教育に取り組む指導者が聴講することで指導力向上に寄与した。 市民の関心を高めるために、講師陣または藝大生による無料コンサートを併せて実施した。コンサートを聴くだけでなくレッスンを聴講する市民も多く、演奏技術や音楽教育への理解を深めてもらう機会となった。					受講者：79人 入場者：766人

20	せんだい・アート・ノード・プロジェクト LECTURES/レクチュアズ	通年	メディアテーク	2,943	0	
	①各方面で活躍するゲストを招き、活動や経験に基づいた考えを話すトークイベント「TALK(トーク)」を、仙台で活動するパートナーと協働で開催した。 ②高校生などに向けた鷲田清一館長やアーティストによる講座「青少年のため生きる技術としてのゲージツ学校」を開催した。講師:タノタイガ(美術家)、HUNGER(ラップアーティスト)					①222人 ②のべ21人
21	『コミュニティ・アーカイブのつくりかた』出版＆記念フォーラム	通年	メディアテーク	3,045	0	
	震災後実施してきた市民協働アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」は、地域課題を様々な主体の参加を得ながら市民一人ひとりの目線でアーカイブする独自の取り組みとして、多くの共感と高い評価を得てきた。この活動記録をまとめ、事業を通じて得られたノウハウや成果、課題を共有し、次の世代に継承するために書籍『コミュニティ・アーカイブをつくろう！』を出版した。また、出版を記念したフォーラム「コミュニティ・アーカイブってなに？」を開催した。					フォーラム参加者:565人
22	『RE:プロジェクト記録集』出版事業	通年	―	2,235	81	
	東日本大震災の発生に伴って津波被害の大きかった仙台市東部沿岸地域について、その土地の生活文化に焦点を当てながら活動してきた「RE:プロジェクト」(平成23～27年度)について、これまでの成果物(『RE:プロジェクト通信』『5年目のRE:プロジェクト通信』)をまとめて掲載するとともに、7年目を迎えた被災地の取材や関係者の座談会を掲載した記録集を発行した。					
④その他						
23	浮世絵ねこの世界展	4/28～6/4	TFUギャラリー　ミニモリ	2,000	0	
	平成28年春から静岡の駿府博物館を筆頭に全国各地を回った巡回展。歌川国芳、広重、国貞、豊国、英泉など、江戸・明治期に活躍した浮世絵師たちが様々な個性で描き出した「ねこの世界」を展示した。8月に上演の「オリジナルミュージカル仙台ねこ」とのタイアップした広報も展開した。河北新報社と共催。					入場者:6,769人
24	周年共通経費	通年	―	2,216	0	
	財団設立以来の事業アーカイブの整備及び事業団ウェブサイトリニューアルに向けた準備を行った。					

2)経常事業

①市民文化事業への支援事業						
25	支援・助成・協力事業	2回募集	―	19,717	19,717	市補助金 19,717
	市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、支援・助成・協力事業として公募により下記のとおり実施した。 ・支援事業:年4回発行の文化情報誌「季刊まちりょく」に市民企画事業の告知を掲載し、広報サポートを行った。 ・助成事業:6月と12月に募集し、募集ごとの助成審査会により資金援助を決定し交付した。 ・協力事業:特に公益性の高い事業や良質な文化事業についての事業団友の会会員への割引チケット斡旋協力の他、資料や機材の貸出、人材の紹介や派遣、企画協力、事務局への参画、会場協力などを行った。					支援:177件 助成:138件 協力:72件
26	名義後援	通年	―	0	0	
	団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。					154件
②公演事業						
27	宝塚歌劇雪組 仙台公演	9/2～3	仙台銀行ホール イズミティ21	26,317	41,980	入場料 41,190 広告料　350 その他　440
	仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施した。2日間・4ステージで第1部ミュージカル「琥珀色の雨にぬれて」、第2部レビュー「“D”ramatic S!」を上演した。					入場者: 5,662人
28	仙台クラシックフェスティバル2017	9/29～10/1	日立システムズホール仙台、他	83,148	78,443	入場料　45,124 協賛金他　10,019 市負担金　23,300
	2006年(平成18年)に事業団創立20周年記念事業として立ち上げ、12回目を迎えた今回は、コンクール入賞者と仙台フィルゆかりの出演者の共演など、仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込むとともに、仙台で音楽を学ぶ学生や子どもたちが出演する公演を設けるなど、仙台で開催する音楽祭ならではの事業を展開した。 ・ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう構成とした。 ・地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール　イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として、3日間で87の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートを複数楽しめる構成とした。 ・地下鉄駅コンサート、街なかコンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとした。					入場者: のべ39,300人
29	もりのみやこのふれあいコンサート	12/8	仙台銀行ホール イズミティ21	3,764	3,764	市補助金　3,764
	障害のある方とそのご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に、一年に一度開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏と構成で、客席とステージが一体となる盛り上がりをみせた。会場を仙台銀行ホール イズミティ21大ホールとしたことにより、、中学校の特別支援学級の生徒も招待するなど、より幅広い年齢層の方々に楽しんでいただいている。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。					入場者:1,084人

30	**デンハーグピアノ五重奏団**	12/22	宮城野区文化センター	1,663	465	入場料　459 その他　6
	世界的にも珍しい古楽器・フォルテピアノと、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの楽器編成によるピアノ五重奏団のコンサートに仙台出身のメゾソプラノ声楽家をゲストに迎えたコンサートとした。現在のピアノが完成する以前のピアノ「フォルテピアノ」のアンサンブルで作曲当時の響きを提供した。					入場者:181人
31	**タンゴ・デル・アルマ～魂のタンゴ～**	10/21	仙台銀行ホール イズミティ21	3,138	1,694	入場料　1,679 その他　15
	ジプシーバイオリニストの第一人者 古館由佳子をはじめ国際的に高い評価を受ける日本タンゴ界の精鋭たちによる、タンゴの名曲を集めたコンサートを実施。タンゴ音楽と華麗なダンスの共演でタンゴの魅力を紹介した。 ピアノ:加藤真由美、コントラバス:田中伸司、ヴァイオリン:古舘由佳子、メゾソプラノ:小島りち子、バンドネオン:平田耕治、ダンス:高志＆めぐみ					入場者: 677人
32	**新春いずみ寄席**	1/8	仙台銀行ホール イズミティ21	3,077	2,812	入場料　2,812
	新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて落語寄席を実施した。13時～、16時～の1日2回公演。					入場者:748人
33	**共催事業**	通年	日立システムズホール仙台、他	1,205	0	
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催した。 ・仙台青葉能(5/20,河北新報社,負担金500千円) ・仙台オペラ協会「フィガロの結婚」(9/2-3,仙台オペラ協会,負担金1,600千円) ・文楽公演(9/26,東北放送,負担金500千円) ・小山実稚恵「音の旅」(5/21,10/22,仙台・杜の響きコンサート,負担金なし) ・TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～ワークショップ(通年,同実行委員会,負担金なし) ・東芝グランドコンサート2018(3/4,仙台放送、負担金なし)、他					20件

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

34	**青年文化センター 劇場・音楽堂等活性化事業**	通年	日立システムズホール仙台、他	66,159	60,878	入場料等　5,133 市負担金　42,882 文化庁補助　12,830 その他　33
	クラシック専用ホールを擁し地域の音楽文化を支える日立システムズホール仙台からの発信事業。文化庁の補助を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。 **①《名曲のちから》「オーケストラ・スタンダード」**(1/30,2/28 コンサートホール):平成23年度からの継続企画。クラシック音楽の鑑賞中級者に向け、オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサートを実施した。 【Vol.20】指揮:山下一史　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 【Vol.21】指揮:角田鋼亮　テノール:樋口達哉　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 **②青少年のためのオーケストラ鑑賞会**(7月、11月 コンサートホール):市内小中学校約220校を音楽専用ホールに招き、本格的なオーケストラ・コンサートの鑑賞会を実施した(小学生プログラム10回、中学生プログラム4回　全14回)。 【小学生プログラム】指揮とチェレスタ:鈴木織衛　司会:御供和江　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 【中学生プログラム】指揮とお話し:鈴木織衛　管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 **③こまつ座公演「円生と志ん生」**(10/8 シアターホール):仙台文学館初代館長 井上ひさし作品のシリーズ上演。日本を代表する劇作家・井上ひさしの作品を、井上戯曲の継承者であるこまつ座により上演することで、井上文学と演劇との関係性を改めて紹介し、作家ゆかりの地、仙台に伝えていくことを目的として開催した。なお本演目は仙台で初の上演となった。 **④演劇ワークショップ＆発表会**(1/16～21　10-BOX、交流ホール):台詞だけに頼らず舞踊、映像、照明などの総合演出に定評がある新進気鋭の在京劇団「世田谷シルク」の代表・堀川炎(ほのお)氏を講師に迎え、参加者を公募しワークショップを行った。堀川氏をはじめ世田谷シルクの劇団員が数名滞在し、地元の演劇関係者も参加・交流しながら舞台づくりを行った。					入場者・参加者: ①1/30: 521人 2/28: 462人 ②10,392人(全14回) ③485人 ④ワークショップ参加者:11人、発表会鑑賞者:22人
35	**青年文化センター活性化事業等**	通年	日立システムズホール仙台	4,643	341	参加料等　62 コピー料収入　279
	ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。 **①パフォーマンス広場活用プロジェクト**(7/29～7/30):当館の特徴的施設である自由空間を利用しているアーティストにスポットをあて、ジャンル複合イベントを実施し、同広場の創造拠点機能を発信するとともに利用者間の新たな関係構築を図った。 **②第3回こどもの夢ひろば"ボレロ"**(7/29～7/30):仙台市出身の著名ピアニスト小山実稚恵氏による企画とタイアップし、子ども向けのコンサートの他、多ジャンルにわたる体験型コンテンツを、全館を総合的に活用して実施した。 **③インド ラダック舞踊団公演**(9/14):インド政府が派遣する優れた舞踊を紹介し、文化の交流及び相互理解の推進を図った。 **④伝統文化・歴史資源活用事業 桃山文化やしき**(2/3～2/4):伝統文化・歴史的資源を活用した、独自の総合・参加型事業の創造を通じて、歴史や文化に親しむ機会を提供した。当年度は桃山文化をテーマとし、政宗公生誕450年記念事業と位置づけ、機運の高まりに寄与した。 **⑤日立システムズホール アートBOX**(11/11):文化に関心のある市民から、事業へのニーズなどを聞きとる調査、ヒアリングを実施した。 **⑥諸室・フリースペース活用事業**(7/29～7/30):茶室等のモデル利用事業として茶道ワークショップ、お抹茶体験を"ボレロ"のコンテンツとして実施したほか、ロビー等での展示事業を実施した。 **⑦地域連携事業**(通年):コミュニティー事業である「旭ヶ丘わんぱく森²がっこ」をはじめ、旭ヶ丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働に取り組んだ。 **⑧事業等調査事業**(通年):次年度事業に向けた調査を実施した。 **⑨コピーサービス事業**(通年):施設利用者用のサービスを継続して実施した。					入場者・参加者: ①1,000人 ②3,068人 ③370人 ④のべ2,336人 ⑤6人 ⑥1,018人 ⑦126人 ⑨は収益事業

36	**泉文化創造センター 活性化事業**	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	325	63	販売手数料 63
	ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。 **①市民協働ロビーイベント**:ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、当年度は3回のロビーコンサートを実施した。 ・ピアノ名曲コンサート①「ピアノのよろこび」(ピアノ4手連弾:文京華・三又瑛子)(11/15) ・ピアノ名曲コンサート②「ピアノの楽しみ」(ピアノ独奏:文京華)(11/16) ・楽しいおやとこのファミリーコンサート(ハンドベルクワイア、劇遊び他:聖和学園短期大学保育科)(2/7) **②ピアノ弾き込みボランティア**(年5日):大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアが6/1～2、10/27、2/18～19の5回にわたり、ピアノ弾き込みを実施した。 **③市民ギャラリー・エントランスロビー展示**(各1回):市民ギャラリーでは:仙台市在住の写真愛好家の渡部正裕氏の写真展 「ボタニカルサウンド2017」を実施した(9/28～10/7)。エントランスロビーでは、地域連携活動「ワクワクぷろじぇくと」等実績のある東北生活文化大学に依頼し、ガラスアートを1階エントランスロビーのガラス壁面に展示した(11/4～12)。 **④泉中央地区プレイガイド事業**(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当財団主催事業のチケット販売の他、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券の受託販売及び入場無料の整理券配布の取り扱いを行った。					入場者・参加者 ①11/15:215人 11/16:243人 2/7:240人 ②のべ10人 ④は収益事業

④ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。

37	**猿舞座のさるまわし**	6/11	榴岡公園 歴史民俗資料館	26	0	
	榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の10回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気で伝統芸に親しむことができた。					参加者:563人
38	**朗読公演「平和への語り一仙台空襲体験記と小川未明『野ばら』」**	8/6	歴史民俗資料館	26	0	
	朗読「リラの会」による「平和への語り一仙台空襲体験記と小川未明『野ばら』」の公演。終戦記念日に近い日程で常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に、効果的に観覧者に伝えた。					参加者:22人
39	**れきみん秋祭り**	10/28、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,515	1	刊行物販売 1
	歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の12回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催。11/3分は財団設立30周年事業とタイアップして実施した。					参加者:6,793人
40	**朗読公演 「朗読の集い～東日本大震災体験文集より～」**	3/4	歴史民俗資料館	28	0	
	「婦防みやぎの朗読会」により、2011年3月11日の『東日本大震災体験文集』をもとに構成された朗読作品を、効果的な音響と照明のもとで上演した。					参加者:34人
41	**体験教室「親子でつくろう古代米」**	5月～11月	富沢遺跡保存館、他	586	111	古代米販売 78 参加料 33
	富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行った。親子での協働作業を通じて、古代からの生業を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会となった。田植え(5/13)、土器づくり・除草(6/10)、石庖丁づくり・かかしづくり(7/29)、稲刈り(9/23)、収穫祭(11/3)まで、計5回の活動日を設けて行った。					参加者:のべ229人
42	**ミュージアムフォトコンテスト 「氷河期の森・縄文の森の風景2017」**	5月～3月	富沢遺跡保存館、他	350	0	
	都市化が進む太白区長町～山田地区にとって、富沢遺跡保存館・縄文の森広場の野外展示は貴重な緑地として地域住民に親しまれているが、より多くの市民に両館の野外展示について楽しみながら知っていただくことを目的として、その魅力を表現した写真を募集し、コンテストを行った。応募作品は、1/16～3/11に富沢遺跡保存館・縄文の森広場にて展示ならびに一般投票を行い、受賞者の表彰式を3/4に実施した。					応募作品:71点
43	**ミュージアム・シアター「狩人登場」(経常事業分)**	5月～3月	富沢遺跡保存館	1,048	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団　短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供した。館外での多面的な展開を図り、東北歴史博物館・こどもひかりプロジェクトでは出前型で実施した。					イベント数:40回
44	**森を育てる2017**	6月～11月	富沢遺跡保存館	238	0	
	富沢遺跡保存館の野外展示「氷河期の森」は、環境復元(展示)と環境回復(保全)を核として館の普及啓発等に活用されてきた。これに、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を加え、環境活動を将来にわたってどう行っていくか、参加者が主体的・計画的に考える基礎づくりの活動を行った。9/16「外来種について」講師:棟方有宗氏、10/1「アメリカザリガニ駆除」、10/21「植物の標本づくり」講師:米倉浩司氏、3/21「身近な野鳥について」講師:石川歩氏。					参加者:のべ55人
45	**冬キラ☆今日の主役は氷河期の森**	11月～3月	富沢遺跡保存館	539	0	
	地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的として実施した。当年度も学生へ参画を呼びかけ、「氷河期の森」の活用を図った。12/9,10各日15:00～18:45、「ワークショップ」「ライトアップ(三原色の森)」「カフェ(佐伯モリヤス氏によるウドゥ演奏)」の内容で実施した。					参加者:のべ719人

46	**学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」（経常事業分）**	通年	縄文の森広場	82	0	
	「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土の縄文土器の特徴を知ってもらい、土器片そっくりの「ドッキー」クッキーづくりを通じて、山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを、お菓子づくり考古学者・下島綾美氏を招いて、近隣の上野山児童館と連携して地域の親子を対象に実施した。					参加者：7組16人
47	**縄文祭復元事業（経常事業分）**	通年	縄文の森広場	1,222	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、まつりの復元・創造を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民と一緒に公開した。当年度は8/11・12に冒険家の石川仁氏を招き、広瀬川宮沢緑地公園で草舟づくりを行い、川に浮かべて乗船体験を行った。また、前年度に引き続き、これまで復元製作してきた楽器を演奏する公開イベント「縄文人の記憶と宴」として館と地域団体・学校などと連携して大規模に行った。館の独自事業と位置づけ全国に発信した。					草舟づくり参加者：75人 宴参加者：207人
48	**仙台文学館まつり**	8/20	仙台文学館	157	9	その他 9
	平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画として、夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫も図った。					入場者数：1,518人
49	**ライブ文学館**	3/14	仙台銀行ホール イズミティ21	851	1,044	入場料1,044
	文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成することを目的とし、ホール、ギャラリーなどを会場に朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成する事業。 **「加賀美幸子の源氏物語」**：NHK元アナウンサーで、現在も古典文学に関する番組やカルチャースクールで講師をつとめる加賀美幸子による源氏物語の原文朗読と解説に、音楽演奏を加え、平安女流文学の世界を味わった。					入場者数：377人
50	**smtホスピタリティ向上事業**	通年	メディアテーク	511	0	
	①環境整備事業：子育て世代の親子連れや児童、生徒の利用促進に向け、館内の様々な空間を効果的かつ魅力的に活用する試みとして「こどもスクエア」を実施した。図書館と連携を図りながら、親子で遊べる安全な「場」づくりを行った。 **②シネバトル メディアによる2階映像音響ライブラリー活性化事業**：2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre（我らがライブラリー&シアター）」という意識をもつ利用者を育む。「シネバトル」と「トークサロン」を交互に開催し、映画・映像作品を通じた市民交流の場を作り出した。					①1,118人 ②214人
51	**活版印刷ワークショップ事業**	通年	メディアテーク	96	0	
	せんだいメディアテークに寄贈された活版印刷機を使用可能な状態で保存し、デジタル製版主流の現在においてオールドメディアとしての活版印刷の技と術を継承する人材を育てる。また、館内で、活版の道具類のミニ展示やワークショップを開催し、広く普及を図った。					参加者：のべ232人
52	**ミュージアムグッズ開発・販売事業**	通年	各ミュージアム他	800	1,236	刊行物販売 1,026 その他 210
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。 **①歴史民俗資料館グッズ**：昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売と、新規復刻地図（城下絵図）の制作販売。（支出303千円、収入247千円） **②富沢遺跡保存館グッズ**：氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ（氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等）、編布グッズ（コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ）を販売。（支出90千円、収入48千円） **③縄文の森広場グッズ**：縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と開発。（支出124千円、収入84千円） **④仙台文学館グッズ**：前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、夏のこども文学館の絵本作家・とよたかずひこ氏の関連グッズを販売し来館者のニーズに応えた。（支出239千円、収入512千円） **⑤メディアテークグッズ**：カネイリと共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売を行った。（支出44千円、収入345千円） **⑥せんだい3.11メモリアル交流館グッズ**：施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発、販売を行うための調査を行った。（支出0千円、収入0千円）					収益事業 *収支は損益ベース

⑤劇都仙台2017事業

都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑥の体系に基づき実施した。
①良質な公演の機会の拡大　②表現者の発掘・育成　③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援　④教育や福祉など他ジャンルとの連携　⑤情報交流や協働　⑥関連調査や研究など

53	**市民能楽講座**	6/10・7/1	能-BOX 日立システムズホール仙台	3,979	3,979	入場料 1,680 市負担金 2,299
	「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。今回は、金春流能「遊行柳」/大蔵流狂言「蚊相撲」公演（7/1）を日立システムズホール仙台シアターホールで、講座は「遊行柳と能の魅力」（6/10）を能-BOXで実施。					能公演：538人 講座：78人
54	**舞台スタッフ☆ラボ**	1月～2月	演劇工房10-BOX、他	1,621	1,621	受講料 90 市補助金 881 助成金他 650
	舞台芸術に必要不可欠な、舞台監督、音響、照明、舞台美術、小道具、衣装の6部門の実践的な講座やワークショップを通じて、劇場での演出や作品創作の基礎から舞台芸術の奥深さまでを総合的に学ぶことにより、幅広い人材育成を行った。また、講座やワークショップに先がけてトークショーを復数回実施し、興味のある層の拡大を担った。					参加者：のべ308人 入場者：101人

55	**10-BOX鑑賞型プログラム**	通年	演劇工房10-BOX、他	5,666	3,270	市補助金 3,270
	①戯曲賞大賞受賞作品リーディング公演:優れた戯曲や良質な作品を広く市民に対して鑑賞の機会を提供するため、せんだい短編戯曲賞の大賞作品のリーディング公演を大賞受賞式に併せて実施。 **②杜の都の演劇祭**:市内の飲食店等の会場を活用して、戯曲や小説などの名作を、朗読に演出を加えたリーディング公演都市、飲食物とともに安価で提供、鑑賞層の拡大(創客)を図った。 **③受け入れ公演**:県外の良質な劇団の公演を受け入れ、鑑賞の機会を提供した。					入場者:1,426人
56	**まなぶ☆からだ**	通年	演劇工房10-BOX	846	846	受講料 156 市補助金 690
	身体表現に着目し、数日間に渡るワークショップを通して、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座を実施した。参加者は舞台関係者のみならず表現活動全般に興味のある層にも広げ、参加者が自ら可能性を発見したり、新たな表現につなげることを目指した。					参加者:のべ68人
57	**せんだい短編戯曲賞**	通年	演劇工房10-BOX 他	1,852	1,852	市補助金 1,852
	演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第5回せんだい短編戯曲賞」を開催。前年度に募集した作品から、選考委員(制作者)5名が大賞を選考した。最終候補作品(10作品程度)を冊子化し、併せて次年度の募集を実施した。					応募:212作品 (31都道府県)
58	**能-BOX 経常事業**	通年	能-BOX	728	728	受講料 86 市補助金 642
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中迓晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行い。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しを実施した。					参加者:103人 入場者:506人
59	**共通経費(事業間連携活動等)**	通年	演劇工房10-BOX、他	1,327	293	刊行物販売 192 市補助金 101
	劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や発送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子販売などを行った。					
60	**演劇ー社会アクセス事業**	通年	演劇工房10-BOX、他	350	0	
	教育や福祉現場での課題を、演劇のもつ力(コミュニケーション能力を育む力、舞台技術等)を生かし、個々の状況にあわせて、解決に向けて協働する。教育現場での演劇の次代の担い手に重点支援するため、小学校での学習発表会のサポートや高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」、とうほく学生演劇祭実行委員会による「第4回とうほく学生演劇祭」を共催で実施した。					参加者:200人
61	**音声学ワークショップ**	通年	演劇工房10-BOX 日立システムズホール仙台	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者の指導も行い、3/25には1年間学んだ成果を披露する発表公演を事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催で実施した。					参加者:70人
62	**大衆紙芝居ネットワーク事業**	通年	演劇工房10-BOX、他	0	0	
	当事業団が平成17年度に実施した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行った。					参加者:10人
63	**スタ☆ラボネットワーク**	通年	演劇工房10-BOX、他	0	0	
	当事業団が平成20年～23年に実施した「コンセントがあればどこでも舞台」(劇場版舞台技術講座に対して、日常の空間にコンパクトな機材による照明や音響効果を加えて表現の可能性を広げるもの)、その流れを引き継ぐ「舞台スタッフ☆ラボ」の参加者による団体「スタ☆ラボネットワーク」の技術勉強会及び公益的活動を応援し、稽古場や機材の貸出などを行った。					対象者:10人

⑥創造都市推進事業

仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。

64	**地下鉄駅コンサート**	9/23～24,29～30,10/1	地下鉄駅構内	1,108	1,108	市負担金 1,108
	文化芸術連携事業事業の一つとして、また、仙台クラシックフェスティバル2017の関連事業として、市民に音楽を発表する機会を提供するとともに、市民が気軽に立ち寄れる無料コンサートを仙台市地下鉄の駅構内(仙台駅・旭ヶ丘駅)を会場に、4日間にわたり開催した。参加出演者は、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等。					来場者:6,520人 参加者:30組138人

⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業

65	**仙台市文化プログラム公募・共催事業**	通年	―	3,620	3,620	市負担金 3,620
	オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における様々な資源を生かした事業を推進し、新しい成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果がオリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー(文化遺産)」として末永く継承されていくことを目的に実施。今年度は一般公募により採択された仙台の魅力を探る「せんだいコンセキ発掘塾」を、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で開催した。					参加者:のべ146人 刊行物制作:1冊

⑧育成・普及事業

主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供した。

66	**芸術家派遣事業**	5月～2月	各学校・地域	0	0	
	「仙台市震災復興のための芸術家派遣事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。市内120箇所に派遣を実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を担当。実行委員会の決算見込は1,645万円。					市内学校・保育所等120箇所
67	**文学館で言葉を楽しもう**	通年	各学校・地域	168	0	
	小中学校の児童生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。常設展示で紹介されている文学のことばを耳で聞いたりして味わい楽しむワークショップや、市内のお話し会活動をしている団体の協力を得て民話語りの奥深さを味わってもらうようなカリキュラムを実践。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とする。29年度は七ヶ浜中学校2年生を対象に行った。					参加者：96人

⑨出版及び作品収集事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。

68	**仙台文学館刊行物販売事業**	通年	—	0	50	刊行物販売 50
	『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴　生きることは愛すること』『ユキユキドンドンスズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売した。					
69	**『仙台戯曲賞シリーズ』販売**	通年	—	0	0	
	「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売した。販売価格は1,080円（税別）。 販売作品『闇光る』『ドドミノ』『ミチユキ→キサラギ』『はだか道』。					
70	**市民文化事業団ブックレット 『文化芸術の社会再生力』販売**	通年	—	0	2	刊行物販売 2
	事業団創立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、平成20年度末に出版したブックレットを継続販売した。					

⑩広報事業等

71	**広報事業**	通年	—	5,023	4,897	市補助金　4,897
	文化情報誌『季刊まちりょく』の発行（年4回）を継続し、当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営（アクセス件数：年70,982件）したほか、報道機関等への情報提供を随時行った。					
72	**市民文化事業団友の会運営**	通年	—	2,979	1,697	友の会会費 1,697
	市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。月例通信『市民ぶんかレター』による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行サービスの提供等を行った。年会費1,000円。					会員：約1,700人
73	**事業団事業全体にかかる共通事務費**	通年	—	2,449	0	
	事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。					

（2）コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

平成31年に開催する第7回仙台国際音楽コンクールの準備を進めた。

74	**事務局運営**	通年	日立システムズホール仙台	6,876	6,876	市負担金　6,876
	コンクール事務局の運営を行った。					
75	**委員会運営**	通年	仙台市内・東京都内	1,808	1,808	市負担金　1,808
	組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催した。					
76	**コンクール事業**	通年	日立システムズホール仙台	1,330	1,330	市負担金　1,327 その他　3
	第7回仙台国際音楽コンクール実施要項を発表した。　第7回出場者募集にかかるWEBサイトの構築を行った。					

77	**広報事業**	通年	日立システムズホール仙台	9,624	9,624	市負担金 9,624
	公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、コンクール関連事業等の広報活動を行った。 第7回コンクール出場者募集に係る印刷物を作成し、国内外へ送付するとともに広告を掲出するなど広報活動を行った。					
78	**ボランティア事業**	通年	日立システムズホール仙台	1,251	1,251	市負担金 1,251
	第7回コンクールに向けて研修等を行うボランティア活動の事務局業務を行った。 ①ボランティアリーダーミーティングの開催 ②会場運営サポート:関連事業等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:コンクール期間中の活動の企画や勉強会等 ⑤ホームステイ受入れ:意見交換会の実施及び「受入れハンドブック」の作成 ⑥ボランティアプロジェクトチーム:第6回コンクール入賞者2名を出演者に迎え、トークコンサートを企画運営した。					
79	**第6回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート**	通年	東京都他	12,072	12,072	入場料・出演料等 5,201 助成金 800 市負担金 6,071
	第6回コンクール優勝者の副賞として、国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供やCDの制作及び販売を行った。また、平成30年度、31年度に実施する副賞の準備を進めた。					
80	**仙台国際音楽コンクール関連事業**	通年	市内各所	2,405	2,405	市負担金 2,405
	・仙台の音楽文化振興を目的に、第6回コンクール入賞者と仙台市内のアマチュアオーケストラが共演する機会を設けるとともに、学校訪問ミニ・コンサートを開催した。 ・仙台ゆかりの若い音楽家の育成とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、仙台市内9か所を会場に、街かどコンサートを開催した。					

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

81	**仙台ジュニアオーケストラ運営**	通年	日立システムズホール仙台、他	24,011	24,011	受講料・入場料等 9,075 市負担金 14,936
	・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。 音楽監督は平川範幸氏に委嘱、通年の練習等の指導は仙台フィルハーモニー管弦楽団の楽団員が行った。 定例の演奏会を以下のとおり開催した。 10/8 第27回定期演奏会(日立システムズホール仙台)、3/25 2018スプリングコンサート(日立システムズホール仙台) ・8/6～8に花巻の渡り温泉で夏期合宿を行った。(団員の旅費等は保護者負担)					団員定員:122人

(4)演劇系練習施設運営事業

82	**せんだい演劇工房10-BOX運営**	通年	演劇工房10－BOX (能－BOX)	26,529	26,529	市補助金 19,382 利用料等 7,147
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援した。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。					利用者 10-BOX:42,010人 能-BOX:2,624人 収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設管理運営事業

83	**せんだい3.11メモリアル交流館管理運営**	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	48,549	48,549	市受託料 48,502 受講料・入場料等 47
	地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業(来館者対応、事業の実施、管理業務の一部)として職員常駐の枠組みで行った。仙台市の東日本大震災メモリアル施設として位置づけられた当施設において、様々な市民や、県内外、海外からの来館者が集う「交流」の場としての親しみやすい運営に努め、下記企画展の他、震災メモリアルや地域の魅力発信にかかわる講座、ワークショップの実施、交流の場の創出(協力事業他)、地域連携、館の運営に資する情報の収集・発信等を行った。常設展を含めた館全体の管理業務についても一定の役割を担った。 【企画展(関連企画のワークショップ等含む)】 ①それから、の声が聞こえる 4/25～7/2 ②せんだい3.11メモリアル交流館を囲む風土展#②「みんなでつくるここの地図」7/11～10/22 ③仙台市宮城野区蒲生字町87 11/7～1/28 ④3.11現場の事実×心の真実 結～消防・命のプロが見た東日本大震災 2/6～4/22					年間入館者: 60,043人 企画展(関連企画) ①6.615人(10人) ②10,382人(458人) ③5,570人(70人) ④13,498人(693人)

(6)芸術文化受託事業

(単位;千円)

84	**市制施行128周年記念コンサート**	7/3	仙台銀行ホール イズミティ21	4,284	4,284	市受託料 4,284
	仙台市の市制施行記念式典の一環として、ソリストに第6回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第2位のエヴァン・ウォンさんを迎えて、仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を開催した。					

85	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	13,686	13,686	市受託料 13,686
	大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管した。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会「星空と路-上映室」や展示「星空と路-資料室」の開催など、さまざまな形で利活用した。					公開コンテンツ:映像2本,写真313枚 ウェブ閲覧数:約828万回 上映会:のべ478人 展示:のべ2,169人 (3/7－11分)

2.定款第4条第2号の事業（文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信）

番号	事 業 名		期 日	会 場	支出	収入	収入備考
	事業内容						入場者数等・備考

（単位;千円）

①仙台文学館普及啓発事業

86	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	447	739	販売手数料 739
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力の発信に努めた。 **①特別展「イラストレーター・安西水丸展」関連**:俳句にも造詣が深く、吟行会などを行っていた安西水丸の作品と活動を知る吟行会＆トークイベントや、市民から寄せられた、安西水丸作品の想い出を展示期間中掲示する市民参加型イベントを開催した。 **②「こども文学館 えほんのひろば」関連**:市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、手作り教室を開催した。 **③特別展「上橋菜穂子　精霊の守り人」関連**:作家である上橋菜穂子本人の講演会を開催した。 **④企画展「井上ひさし資料特集展Vol.7」関連**:展示室内でのリーディングイベントを実施した。					参加者:のべ1,603人
87	ことばの祭典－ 短歌・俳句・川柳への誘い	6/24	仙台文学館	423	423	市補助金 423
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選んだ。					参加者:130人
88	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,191	2,291	受講料 2,291
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図った。 **①小池光短歌講座**:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回開催した。 **②仙台文学館ゼミナール**:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催した。 **③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど**:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーディングなど、文学作品の朗読イベントを実施した。					①749人 ②2,426人 ③210人
89	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	54	54	市補助金 54
	県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行った。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを増刷した。					
90	学芸員出前講座	通年	―	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。					12件 参加者:620人
91	情報誌の発行	通年	―	1,126	734	市補助金 734
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続して行った。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。					
92	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図った。					
93	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	―――	0	0	
	両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施した。					
94	出版物等の販売	通年	―――	508	508	刊行物販売 135 市補助金 373
	小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売した。					

3.定款第4条第5号の事業（文化芸術等に関する生涯学習の支援）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

（単位；千円）

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業						
95	**せんだい・アート・ノード・プロジェクト**	通年	メディアテーク	30,301	30,301	市補助金 28,801 助成金 1,500
	優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する事業を行った。2年目となる平成29年度は、アーティスト藤浩志氏を迎え、「ごみの資源化」プロジェクト「ワケあり雑がみ部」を実施し、仙台市環境局主催の啓発イベント「せんだい資源ナーレ」（会場：せんだいメディアテークオープンスクエア）で市民の活動成果を発表した。また、沿岸部の復興と向き合うプロジェクト「川俣正/仙台インプログレス」や、仙台・東北を調べて表現するアーティストの活動場所となる「東北リサーチとアートセンター」を立ち上げた。更に、仙台で活動するパートナーと協働で企画・実施するトークイベント「TALK（トーク）」、事業を市民とともに検証するための自由参加型公開会議「MEETING（ミーティング）」を実施した。これらの取り組みを広く発信するため、情報紙「JOURNAL（ジャーナル）」やウェブサイトなどを通じて事業に関する情報発信やアーカイブを行った。					参加者：10,715人（うちワケあり雑がみ部成果発表7,861人）
96	**調査と表明（1）**	通年	メディアテーク	15,327	15,327	入場料 730 市補助金 6,797 助成金 7,800
	国内外で活躍するアーティスト（芸術家）や地域の市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題をリサーチ（調査）し、その成果を展覧会などによって発表（表明）することで、再び地域へ還元していく事業。 **①展覧会事業「コンニチハ技術トシテノ美術」**もとは同じ意味であった「技術」と「藝術」。近代化の過程で意味を分かち、どちらも日常生活とは距離を持って存在しているかのようなこれらとの関係について、改めて表現をとおして問い直した。東北で表現活動を行う美術家、あるいは震災以降の東北に関心を寄せる気鋭の美術家がメディアテークの特性を活かし、それぞれの視点から表した。参加作家は、青野文昭、飯山由貴、井上亜美、高嶺格、門馬美喜の5人。 **②アーティストリサーチ：**平成28年度から継続してアーティストグループ「ヒスロム」を招聘し、平成30年度の展覧会に向けた調査を実施した。また、メディアテーク7階スタジオにおける映像展示により、ヒスロムの活動を広く紹介した。					①入場者：3,174人、関連企画参加者：120人
97	**調査と表明（2）**	通年	メディアテーク	2,958	2,958	市補助金 1,258 助成金 1,700
	市民間の交流、対話を促進するための対話の場／機会／メディアを用意した。 **①スタジオ情報発信：**「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議を中心に、市民力の醸成、市民の主体的な社会参画が文化面から活性していくことを目指すとともに、さまざまなアートやメディアにまつわる文化活動への支援を行った。また、それらの「スタジオ協働事業」の成果をウェブサイトやさまざまな機会を通し、広く発信した。 **②地域文化アーカイブ：**市民の自発的な地域文化財のデジタル化、保存、活用を促す取り組みを行った。成果物は、メディアテークに保存し、ライブラリーへの配架、ウェブサイト等での発信、またそれらをもととした催事を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。					スタジオ活動：8,821人
98	**発信・施設活用推進**	通年	メディアテーク	3,774	3,774	刊行物等販売 111 市補助金 3,663
	各種団体との連携を通じ地域におる役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促す事業を実施した。 **①バリアフリー・デザイン事業**：目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民との協働で行った。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行った。 **②館長発信事業**：発信力ある鷲田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークを開催した。 **③地域文化連携・施設活用推進：**各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担う様々な「まつり」「行事」との共催事業を実施した。オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示すことができた。また、市民図書館とのフェスティバル「とぶらすウィーク」やテーマに沿って図書を紹介する「スクエア図書館」の開催により、さまざまな収蔵資料の魅力を伝えた。同時に定期的な広報、啓発、情報発信にも努めた。					①322人 ②558人 ③19,031人

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等・備考

（単位；千円）

（1）仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

99	**仙台市歴史民俗資料館 管理運営**	通年	歴史民俗資料館	60,160	60,160	市指定管理料60,160
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。					
100	**仙台市歴史民俗資料館 常設展示**	通年	歴史民俗資料館	287	287	市指定管理料 287
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行った。					入館者：35,643人

①特別展・企画展及び関連事業

101	企画展「日々の装いと履物」	4/29～7/2	歴史民俗資料館	207	207	市指定管理料　207
	衣服や履物は、日常生活や生業、信仰、芸能など、使用する場や用途でさまざまなものが作り出された。衣服の材料は、カラムシや麻、フジなどの植物および樹皮などの繊維や、あるいは木綿や絹などで作られた。また履物の材料はキリ、スギ、カシ、ホウ、あるいは稲わら、麻などでも作られました。企画展では、仕事着や日常着などの衣服や、下駄、草鞋、草履などの履物を紹介し、仙台地方の衣服や履物の生活文化について考えることができた。					観覧者：11,133人
102	企画展「なつかし仙台４～いつか見た街・人・暮らし～」	7/15 ～11/5	歴史民俗資料館	1,293	1,293	市指定管理料　1,293
	仙台地方における街・人・暮らしを中心に、明治時代、大正時代、昭和初め、戦時中、戦後、現代における写真、絵葉書、写真帖などの資料を紹介した。特に明治・大正の写真帖、市民の皆様から提供された戦前・戦後の家族アルバム、個人写真などを通して、仙台の街並や人々の生活の移り変わりを明らかにした。またNPO法人20世紀アーカイブ仙台と連携し、戦後、現代の新たな映像資料、音声資料、写真資料を公開し、街・人・暮らしの移り変わりの意味について考えることができた。					観覧者：12,849人
103	特別展「Winter Life in Sendai ～仙台の冬のくらし～」	11/18～4/15	歴史民俗資料館	900	900	市指定管理料　900
	現在のような冬用の衣類や暖房器具がない時代、人々はさまざまな工夫を凝らしながら冬の寒さをしのいでいた。この展示では厳冬期でも重ね着をして手元に火鉢を置いて暖をとって過ごしていた、かつての冬の過ごし方を紹介し、生活の工夫と知恵を考えた。また、冬季オリンピックの開催に関連して、スキーやスケートなど、冬に楽しむスポーツについてもふれ、冬のくらしを多面的に紹介することができた。					観覧者：9,907人
104	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	67	67	市指定管理料　67
	①資料館サポーター養成講座（7月～3月）：「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざした。 **②子ども講座**（7月、1月、3月）：おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。 **③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」**（4/29～5/7）：なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験した。 **④クイズラリー**（夏休み・冬休み）：クイズやパズル形式での自主見学学習。 **⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」**（8月、10月、2月）：展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。 **⑥ホームムービーの日**(10/21)：家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。					参加者：9,468人
105	資料館だより等の発行	通年	歴史民俗資料館	150	150	市指定管理料　150
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習や総合的な学習に資することができた。					
106	歴史民俗資料の収集・保管、資料集の発行	通年	歴史民俗資料館	1,967	1,967	市指定管理料 1,967
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」第16冊をまとめ刊行した。					
107	調査報告書の発行	通年	歴史民俗資料館	847	847	市指定管理料　847
	仙台地域を中心に民俗（民間伝承）、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」第36集にまとめ、刊行した。					
108	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習の際、年間100校を超える市内外の学校が見学に訪れ、石臼挽きなどを体験をした。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、8月、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。					

（2）仙台市富沢遺跡保存館　管理運営・調査研究・普及啓発事業

109	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	82,621	82,621	市指定管理料 82,621
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。					
110	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,094	13,094	市指定管理料13,094
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」（植生復元）の野外展示を総合的に行った。					入館者：40,698人

①特別展・企画展

111	企画展「仙台の遺跡①　陸奥の「国府」郡山遺跡と周辺の遺跡」	4/14～6/18	富沢遺跡保存館	44	44	市指定管理料　44
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。当企画展では、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は国指定史跡である郡山遺跡を中心に取り上げ、関連する長町駅東遺跡や西台畑遺跡等と共に発掘調査の出土資料を中心に紹介した。					観覧者：10,568人

112	**特別企画展「いにしえの木林森」**	7/21～9/24	富沢遺跡保存館	1,876	1,876	市指定管理料 1,876
	低湿地に残された遺跡が発掘調査されることによって、旧石器時代以降の日本列島にどのような森林が広がっていたのかが判明してきた。まだまだ限られた例ではあるものの、本展では東日本各地でみつかった森の跡とそこに残されていた人間活動について、旧石器時代から縄文時代を中心に紹介し、当館が保存する森林跡と比較しながら展示を行った。					観覧者:9,771人
113	**企画展「陸奥国分寺展―発掘黎明期の挑戦者―」**	10/20～12/17	富沢遺跡保存館	89	89	市指定管理料 89
	東北大学所蔵の陸奥国分寺の発掘調査によって出土した資料を中心に、仙台市所蔵の関連資料やパネルの展示を通して紹介した。本展は、東北大学大学院文学研究科・東北大学総合学術博物館と連携して開催した。					観覧者:6,407人
114	**企画展「地底の森ミュージアム2017」・「ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2017」作品展**	1/16～3/11	富沢遺跡保存館	23	23	市指定管理料 23
	富沢遺跡保存館で行われた平成29年度事業と、ボランティア会などの活動等を紹介するとともに、フォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2017の作品展の展示を行った。					観覧者:3,680人
115	**講座・体験イベント・ボランティア事業等**	通年	富沢遺跡保存館	1,163	1,163	市指定管理料 1,163
	①地底の森フェスタ2017(10/9):屋外を会場とし自由参加の形態で開催した。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を当館ボランティア会とともに企画し実施した。 **②考古学講座**(11/18、1/20):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした2回講座。11/18「土器作りと調理からみた先史・古代の東北農耕社会」講師:北野博司氏、1/20「島国の心と暮らしの革命 ―縄文から弥生へ―」講師:松木武彦氏。 **③たのしい地底の森教室(通年)**:当館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会を行った。また、ゴールデンウィークや特別企画展期間中、小中学校の秋休み期間中にはモノづくり体験の要素を取り入れて、石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施し、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を活かした活動を行った。毎月2回程度実施。 **④利用学習事業(通年)**:市内の小学校(5・6年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はWeb公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。 **⑤市民文化財研究員育成(通年)**:考古学に対する市民の学習活動を支援するため、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設けた。成果は活動報告書にまとめてWeb公開した。 **⑥ボランティア育成(通年)**:市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。 **⑦地域や大学との連携**:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生サポーターとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する活動を実施した。					①参加者:のべ1,292人 ②参加者:のべ80人 ③参加者:のべ2,873人 ④参加者:24校1,739人 ⑤参加者:8人 ⑥登録者:71人 ⑦太白区民まつり:56人、 学生サポーター登録者:52人
116	**研究報告の刊行**	通年	富沢遺跡保存館	208	208	市指定管理料 208
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。平成28年2月19日に縄文の森広場で開催した「開館記念シンポジウム記録集」として刊行した。					
117	**ポスター・図録等の印刷・刊行**	通年	富沢遺跡保存館	847	847	市指定管理料 847
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。なお、特別企画展については展示図録を刊行した。					
118	**資料の収集・保管**	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					
119	**遺構の各種分析調査**	通年	富沢遺跡保存館	347	347	市指定管理料 347
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行った。併せて保存処理検討会を11月と2月に開催し、専門家の指導を得ながら遺構の保存を図った。					
120	**次年度事業準備・その他**	通年	富沢遺跡保存館	135	135	市指定管理料 135
	平成30年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。					

②地域との連携事業

121	**運営懇談会**	7月、3月	富沢遺跡保存館	0	0	
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るため当館の活動を紹介したり、当館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行う機会として、近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席いただき懇談会を7/27に開催した。また、3/1には近隣の小野田小学校への聞き取り調査を行い、地域との連携を推進していくための意見交換と情報収集を行った。					懇談会参加者:18人

(3)仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

122	**仙台市縄文の森広場　管理運営**	通年	縄文の森広場	42,344	42,344	市指定管理料 42,344
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を適切に維持管理した。					入館者:30,098人
123	**仙台市縄文の森広場　常設展示**	通年	縄文の森広場	14,700	14,700	市指定管理料 14,700
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。					
124	**コーナー展示「仙山交流」**	通年	縄文の森広場	35	35	市指定管理料　35
	仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、仙台・山形の遺跡を中心として紹介しながら実施した。 ①「仙山交流in仙台-沼遺跡と出土遺物」(4/21～6/11) ②「仙山交流in高畠-押出遺跡と出土遺物」(7/15～10/22) ③「仙山交流in七ヶ浜」(12/1～2/4) ④「仙山交流in仙台-上野遺跡と出土遺物」(3/16～6/10)					①観覧者:5,357人 ②観覧者:6,700人 ③観覧者:2,158人
125	**縄文まつり(コンサートを含む)**	5/14, 7/17, 10/29, 2/4	縄文の森広場	1,127	1,127	市指定管理料1,127
	季節ごとに開催する自由参加イベント。計4回実施した。特に夏と冬の縄文まつりではその日だけの体験コーナーの他、近隣の小学校の音楽演奏や読み聞かせ・紙芝居なども取り入れて実施した。					参加者:1,614人
126	**縄文講座**	12月～2月	縄文の森広場	204	204	市指定管理料　204
	縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募100名対象。以下の内容の講座を実施した。 **①「七ヶ浜町の縄文発掘最前線」(12/17)** **②「あざやかよみがえった6,000年前の縄文文化-富山県小竹貝塚の発掘！」(1/21)** **③「有明海に沈んだまぼろしの縄文文化-佐賀県東名遺跡の発掘！」(2/18)**					参加者: ①62人 ②59人 ③86人
127	**普及啓発事業**	通年	縄文の森広場	1,255	1,255	市指定管理料1,255
	①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を実施した。 **②随時体験:**来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。 **③体験講座:**「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室を実施した。 **④特別イベント:**春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。					
128	**ボランティア育成事業**	通年	縄文の森広場	152	152	市指定管理料 152
	当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて育成の事業を行った。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのため、研修事業も行った。					

①学校との連携事業

129	**学校教育との連携**	8月、10月、11月	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
	学校教育との連携を促進を目的として実施する事業で、8月には市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員の機関研修会を実施した。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施した。さらに、8月と11月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れて実施した。					機関研修:13人 博物館実務実習:1人 職場体験:14人
130	**利用学習事業**	通年	縄文の森広場	2,478	2,478	市指定管理料 2,478
	小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行う。学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。					参加者:2,368人

②地域との連携事業

131	**運営懇談会**	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料　1
	縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。					7月:17人 2月:21人
132	**縄文の森広場 縄文畑の活用**	通年	縄文の森広場	0	0	
	縄文畑に展示の一環として育てているソバ・アワ・キビ・ヒエの播種から調理までを体験するなど、子どもたちの活動としてその利活用を図った。また、縄文時代に関する生活体験などを行った。					

③調査研究事業

133	**体験活動メニューの調査研究**	通年	縄文の森広場	344	344	市指定管理料 344
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。					
134	**復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査**	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。また、復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討し、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。					
135	**ボランティアスタッフとの共同調査研究**	通年	縄文の森広場	0	0	
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。					
136	**平成30年度コーナー展資料調査**	通年	縄文の森広場	10	10	市指定管理料 10
	平成30年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。					
137	**資料の収集・保管事業**	通年	縄文の森広場	0	0	
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。					

(4)仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

138	**仙台文学館 管理運営**	通年	仙台文学館	181,924	181,924	市指定管理料 181,924
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。					入館者:62,267人 収益事業を含む
139	**仙台文学館 常設展示**	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介した。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。					

①特別展・企画展

140	**特別展「イラストレーター　安西水丸展」**	4/28～6/25	仙台文学館	1,853	1,853	市指定管理料 1,853
	2014年に急逝したイラストレーター・安西水丸の作品を展示。安西は漫画・絵本・小説やエッセイ執筆、翻訳など、枠にとらわれることなく様々な方面でその才能を発揮している。本展では、イラストレーションの作品を中心に、安西の幼少期から晩年にいたるまでの足跡を辿る。また、公私に渡り親しい間柄であった、嵐山光三郎、村上春樹、和田誠らとの仕事も紹介。70年代から第一線で活躍し続け、時代を駆け抜けた安西水丸の生涯と作品の軌跡を振り返る内容とした。					観覧者:3,863人
141	**夏休み企画「こども文学館えほんのひろば　とよたかずひこの絵本世界」**	7/15～8/27	仙台文学館	1,777	1,777	市指定管理料 1,777
	『どんどこももんちゃん』シリーズや『ワニのバルボンさん』シリーズなど、長年にわたり、子どもたちに愛される絵本を描きつづけている、仙台出身の絵本作家・とよたかずひこの原画展を開催。繰り返しの読み聞かせを意識して書かれたことばのフレーズと、明るい色調によって描かれた絵本は、子どもたちはもちろん、図書館や読み聞かせの団体からも絶大な支持を得て、ロングセラーとなっている。展示ではこれら絵本の創作の過程と、子どもたちの感性に響く作品世界を紹介。会期中には作家によるギャラリートークやサイン会、絵本作品にちなんだワークショップも開催し、絵本を愛するすべての大人とこどもに向けた企画とした。					観覧者:5,386人
142	**特別展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」**	9/16～11/26	仙台文学館	4,934	4,934	市指定管理料 4,934
	『精霊の守り人』『獣の奏者』『鹿の王』などのベストセラーを次々と発表し、2014年にこどもの本における最高の賞である国際アンデルセン賞作家賞を受賞した、上橋菜穂子の作品世界を展示した。多様な価値観や、文化的背景の異なる人々が織りなす世界をあざやかに描きあげる作品は、世界的に高い評価を得て、幅広い年齢層の読者から熱い支持を集めている。本展ではドラマ化された代表作〈精霊の守り人〉シリーズに描かれる多文化共生を軸として、その壮大な物語世界と、作家上橋菜穂子の卓越した創造力の源泉に迫る。TVドラマ資料やアニメ、漫画化された作品の関係資料も展示。ファンタジーや児童文学という枠をさらに超えた圧巻の物語世界のすばらしさを味わってもらう企画とした。					観覧者:5,247人
143	**企画展「井上ひさしの国語教室　井上ひさし資料特集展vol.7」**	12/16～4/8	仙台文学館	1,638	1,638	市指定管理料 1,638
	2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から時宜にかなった作品の資料を選び展示する。今年度は、「ことばの専門家・井上ひさし」に着目し、自館所蔵の膨大な創作メモやプロットから、その読書術、文章技法、読み書きに対する井上の意識に迫る企画展とした。また川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介した。					観覧者:1,620人

144	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/12	仙台文学館	163	163	市指定管理料 163
	文学館あての年賀状を広く一般から募集して展示した。また、文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示紹介した。					観覧者:3,688人
145	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	2,971	2,971	市指定管理料 2,971
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。					
146	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	2,684	2,684	市指定管理料 2,684
	平成30年春の特別展の準備を進めた。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介した。					

5.定款第4条第6号の事業（文化施設及び生涯学習施設の管理運営）

番号	事 業 名		期 日	会 場	支出	収入	収入備考
	事業内容						備考

（単位；千円）

（1）仙台市青年文化センター管理運営事業

147	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	342,232	342,232	市指定管理料 342,232
	平成29年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その1年目となる当年度において次のとおり施設運営を行った。 (1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化した。 (2)利用者と積極的なコミニュケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指した。 (3)施設利用に関すること及び芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化した。 (4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、施設の利用促進事業や創造的な実演芸術などの各種事業を行った。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続して行うなど不断の業務改善に努めた。 (6)震災や外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制を構築する。また、環境に配慮した各種施策を行った。 (7)大規模改修についてはこれまでの知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに設備更新や調整業務を行った。 (8)楽都仙台の拠点施設として楽都事業の運営サポートを行った。					年間利用者: 295,336人 収益事業を含む

（2）仙台市泉文化創造センター管理運営事業

148	仙台市泉文化創造センター （仙台銀行ホール イズミティ21）管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	122,800	124,215	市指定管理料 124,215
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受けた期間の3年目として、次のとおり施設運営を行った。 (1) 市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指した。 (2) 施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。 (3) 適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なった。 (4) 施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進した。 (5) 施設を活性化させる事業として、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示、新春いずみ寄席等を行った。					年間利用者: 281,390人 収益事業を含む

（3）せんだいメディアテーク管理運営事業

149	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	562,747	562,747	市指定管理料 562,747
	人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図った。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行った。事業としては、「考えるテーブル」などの協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進めた。また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。					年間利用者: 397,793人 収益事業を含む
150	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	7,126	7,126	市指定管理料 7,126
	映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。					配架数 379点 smtコレクション 88タイトル